

第6学年*組 国語科学習指導案

指導者 大金 淑子

- 1 単元名 筆者のものを見方をとらえ、自分の考えをまとめよう
(『鳥獣戯画』を読む) この絵、わたしはこう見る)

2 単元の目標

- 絵の解説文を書くことに興味をもち、進んで絵から読み取ったことを伝えようとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- 事実と感想、意見などとの関係を押さえて、絵と文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりして、考えを明確にしながら読むことができる。 (読むこと)
- 絵から読み取ったことや感じたことを、事実と感想、意見などとに区別しながら、簡単な解説の文章を書くことができる。 (書くこと)
- 文末表現や助詞などの語句に着目して読み、語句と語句の関係を理解することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 児童観

本学級は読書の好きな児童が多く、朝の読書の時間や休み時間を利用して自分の好みの本に親しんでいる。しかし、国語の学習や書くことに苦手意識をもつ児童が多い。

自分の考えを書くことが苦手な児童が挙げた理由は、「何を書いていいかわからない」、「どのように書いていいかわからない」などが多い。書く目的や意図が明確でないため、書く事柄や書きたいことについての情報を捉えきれず、また、それらをうまく整理できないでいると思われる。

全国学力・学習状況調査や学力診断のためのテストなどで、誤答と共に無回答率が高いのも、「書く能力」に関する設問であることが分かっている。

そのため、目的や意図に応じ、書く事柄を整理して書く力を育てるための手立が必要だと考える。整理する際には、事実と感想、意見の区別を付けることも求められる。

アンケートによる実態調査 (平成*年*月*日実施) *名
○本を読むことは好きですか ・好き *名 ・嫌い *名
○国語の学習は好きですか ・好き *名 ・どちらかといえば好き *名 ・どちらかといえば嫌い *名 ・嫌い *名
○自分の考えを書くことは得意ですか ・得意 *名 ・どちらかといえば得意 *名 ・どちらかといえば苦手 *名 ・苦手 *名
○苦手な理由は何ですか ・何を書いていいかわからない。 ・書き方がわからない。 ・書き始めが難しい。

(2) 教材観

本教材は、「漫画の祖」とも言われる国宝の絵巻物について、アニメーション映画の監督が、それを解釈したり評価をしたりしている。本教材で初めて「鳥獣戯画」に触れる児童がほとんどであると考えられるが、ユーモラスな作品とそれらを実評価する文章表現は、大変魅力的なものである。したがって、本教材は、自分の考えを明確にもち、優れた表現を模範に、絵の解説文を書くのに適した教材である。

(3) 指導観

『鳥獣戯画』を読む・「この絵、私はこう見る」では、絵の魅力を伝える解説文を書くという言語活動を設定する。まず、グッドモデルとして、教材文『鳥獣戯画』を読むを提示し、筆者の見解や優れた表現に注意しながら読んでいく。筆者がどの部分の何を根拠（事実）にして、どのように評価（感想、意見）しているのか、また、それをどのように表現しているのかを捉えるようにする。次に、それぞれが選んだ絵を自分なりの見方で読み取り、感じたことの中から書く事柄を決め、整理する。そして最後に、選んだ絵の魅力を伝えるための解説文を書く。以上のように、筆者の意図や思考を捉え、自分の考えを明確にしながら読み、優れた表現を参考にして書く学習活動を通して、事実と感想、意見などを区別し、目的や意図に応じて書く力を育てることができると考える。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・絵に関心を持ち、自分なりに絵から読み取ったことを伝えようとしている。	・自分の見方や感じ方が伝わるように、考えを整理し、表現を工夫して解説文を書いている。	・絵と文章を照らし合わせながら、筆者のものの見方や表現の工夫を読み取っている。	・文章表現に着目し、語句と語句との関係を捉えている。

5 単元の指導計画（9時間扱い） ○本時

次	時	主な学習活動	主な評価規準（評価方法）
一	1	○「鳥獣人物戯画」を鑑賞し、感想を交流する。 ○「絵の魅力を伝える解説文を書いて、○○ミュージアムを作ろう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。	〔国語への関心・意欲・態度〕 ・絵に関心を持ち、絵の魅力を伝える解説文を書き、○○ミュージアムを作る活動に意欲的に取り組もうとしている。 (交流の様子、ふり返しカード)
二	1 2 3	○『鳥獣戯画』を読むを読んで、筆者のものの見方（事実と感想、意見）を捉え、書かれていることを読み取る。 ○筆者が用いている構成や表現の工夫を捉えながら『鳥獣戯画』を読む。	〔読む能力〕 ・絵のどの部分を根拠として、解説したり評価したりしているのか、的確に押さえながら読んでいる。 (ワークシートの記述内容) 〔言語についての知識・理解・技能〕 ・文章表現に着目し、語句と語句の関係を捉えている。 (ワークシートの記述内容)
三	1	○自分の選んだ『鳥獣人物戯画』から事実を読み取り、解説マップを作成	〔書く能力〕 ・事実や感想・意見の違いを理解し、自分なりの見

	<p>する。</p> <p>2 ○絵から読み取った事実を基に、感想や意見を付箋に書き、解説マップを作成する。</p> <p>③ ○作成した解説マップを基に、自分の選んだ絵をどのように読み取ったか、考えを交流し、整理する。</p> <p>4 ○解説文の構成や表現の工夫を考えながら、選んだ絵の解説文を書く。</p> <p>5 ○完成した解説文を読み合い、絵の見方や表現のよさを交流する。</p>	<p>方で、絵から読み取ったことを解説マップに書き出している。 (付箋紙と解説マップへの記述内容)</p> <p>・解説マップを基に、絵から読み取ったことを交流し、自分の考えを明確にしている。 (交流会の観察・解説マップの内容)</p> <p>・読み取ったことがより伝わるように、根拠となる事実と意見、感想を区別し、解説文を書いている。 (解説文の記述内容)</p> <p>[国語への関心・意欲・態度]</p> <p>・絵を見たり、解説文を読んだりしながら、感じたことを進んで伝え合おうとしている。</p>
図工の時間	○図工室の廊下に絵と解説文を掲示し、「○○ミュージアム」を開設する。	

6 本時の指導

(ア) 目標

絵から読み取ったことを交流し、解説文を書くための事実と感想、意見を解説マップに整理することができる。

(イ) 準備・資料

「鳥獣人物戯画」の絵、モデル資料、解説マップ、付箋、作業ボード

(ウ) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだ絵から読み取ったこと ・解説はピンク、評価は青色の付箋に書いたこと <p>(2) 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>絵から読み取ったことを交流し、解説文に活用できる材料を整理しよう。</p> </div> <p>(3) 学習の流れを知る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 同じ絵を選んだ班で交流し、付け加えや助言をし合う。 ② 異なる絵を選んだ班で交流し、新たな読み取りの視点を書き加える。 ③ 友達と交流したことを基に、解説文 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大した「鳥獣人物戯画」の絵や、「ものの見方と表現」の一覧表を提示し、絵から感じたことや読み取ったことを「解説マップ」にまとめてきた前時までの学習を想起できるようにする。 ・単元の学習計画や1時間の学習の流れを提示しておくことで、本時の学習課題や活動の見通しをもてるようにする。 ・付箋紙を色別にすることで、視覚的にも、事実と感想、意見を区別しやすくし、解説文を書く際に生かしていく。 ・グループで交流し、自分の考えを伝え合い、互いの意見の共通点や相違点を知ること、多様な受け止め方があることに気付くことができるようにする。

に使える材料を整理する。

2 絵を見て、読み取ったことについて交流し、助言し合う。

(1) 同じ絵のグループで交流。

- ・同じ着目点だね。評価の仕方も解説も同じだ。
- ・同じ着目点なのに、評価の仕方も解説の仕方も違っている。
- ・同じ絵だけど、着目しているところが違う。

(2) 異なる絵のグループで交流。

- ・自分が気付かないところに着目している。
- ・解説の仕方が自分と違う。
- ・面白い評価の仕方をしている。

3 友達と交流したことを基に、自分の解説文に生かせる材料を整理する。

- ・新たな着目点が加わった。
- ・面白い評価の仕方に気付いた。
- ・違う解説をして、分かりやすくしよう。

4 本時の学習を振り返る。

- ・友達と交流をして、自分の考えが確かめられた。
- ・新しい読み取りを知ることができた。

・グループでの交流が進みやすいように、絵や付箋紙を貼ったり、気付いたことを記入したりできる作業ボードを使う。

・同じ絵を選んだ者同士でグルーピングをすることで、共通点やそれぞれに着目点や解説、評価が異なることにも気づき、ものの見方を広げることができるようにする。

・異なった絵のグループで交流することで、自分とは違った着目点や解説、評価の仕方に気付くことができるようにする。

・新たな言葉が出てきたときは、自分の解説マップに付け加えて、表現を増やしていけるよう助言する。

・交流したことで付け加える事実や感想、意見がある時には、青ペンで書き加えるようにし、見方の広がりや考えの深まりを分かるようにする。

(評) [書く能力]

着目点と、読み取った事実や考えが明確になり、解説マップの付箋紙を適切に整理している。

(解説マップの内容)

[努力を要する] 状況と判断した児童への手立て

- ・解説マップの付箋紙を見て、着目点と解説・評価が合っているか確かめるようにする。

・学習カードに本時の振り返りを書き、次時の、解説文を書く活動の意欲につなげる。